



川俣小学校「学校だより」

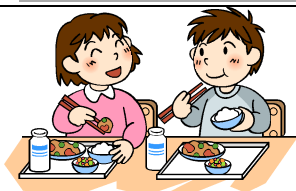
輝くひとみ

令和元年11月22日(金) 第27号

教育
目標

☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども

発行者 校長 本名 武



「当たり前」を「有難いこと」に

「当たり前」に思うことを「有難い」とことと気付き受け止められるようにすることも大人の役割と考えます。例えば、毎日いただいている給食・・・。

安全・安心に気をつけ一生懸命に野菜等を作っている生産者の方々、献立作成や業者に食材や食数を間違えないよう材料発注等を行う方。配膳作業に遅れないよう食材を届けてくれる方々、時間との勝負の中、異物等混入等のないように気をつけながら愛情たっぷりに調理してくれる方々、できたての給食を大事に各校に配送してくれる方々。実際はもっともっと多くの方々が関わって、「当たり前」のように子どもたちの目の前にならぶ給食。全てがスムーズに完璧にいつてはじめて、目の前においしい給食が姿を現します。そう考えると、やはり「有難い」ことなのだと思います。学校では、給食指導をとおして、さまざまな気付きと「感謝の気持ち」も育てようとしています。

給食の他にも、机の上を見れば、当たり前のように自分の教科書・ノートがあつて、椅子に座って机で勉強できること、友達と自由に遊んだり遊具で運動したりできること等々、世界に目を向けると、大変恵まれていることに気がきます。やはり、これも「有難い」と感じます。



空き缶を捨てる人、拾い上げる人



「感謝する人に、幸運は舞い込む」と言われます。どんな人たちなのでしょう。

Aさんは、皆から好かれ人望もあり、仕事も順調で運のいい人、幸せな人です。きれいな花の咲く花壇を通るとき「朝からなんて気持ちいいだろう、こんな素敵な花々を見られて幸せ」と感じ、こんな気持ちになれたのも「衣服を汚しながらも土作りや苗を植えた人、草取りや毎日の水やりなどお世話した人」たちのおかげだと「きれいな花とそのかげにいる人々」に感謝の気持ちをもちます。だから、花壇の中に、空き缶が捨てられているのを見て心が痛み、拾い上げました。そういう姿をみんなは見ています。Aさんは、きれいな花から、その後ろに存在する人々の関わりを想像できる「豊かな感性」をもった人でした。だから、気配りや細かな配慮ができ、仕事も人間関係も良好で、日々の事象にも、そのありがたさを感じ取り、幸せを感じることができたのでした。

Bさんは、自分では能力があると思うのに、仕事もうまくいかず、皆からもよく思われていません。自分が運が悪いのは他人のせいと思っています。花壇のきれいな花も目に入らず、イラついた気持ちで空き缶を投げ捨てます。そういうところをみんなが見ているのです。

AさんBさんから、感謝の気持ち、人の関わりを想像できる感性をもつ大切さを教えられます。「アメリカインディアンの教え」という本に「ほめられる中で育った子は、いつも感謝することを知ります」とあります。本人にしっかりとよさを伝えること、照れずにありがとうを伝えること、そのように育てられた子は、感謝の心を大きくし、幸せに一番近い人になっていくのだと思います。



「あ!はがいのちだ」



よく噛んで食べると「あ!はがいのちだ」のいいことがあるとのこと。〇〇には、何が入るでしょうか。よく考えて噛む大切を知ってほしいと思います。あ「あ〇」が分かる。は「は〇〇〇」がよくなる。が「か〇〇〇〇」がよくなる。い「い」の調子がよくなる。の「の〇」の働きがよくなる。ち「ち〇〇」が出る。だ「た〇〇〇」を防ぐ。他に心臓を強くするホルモンも分泌されるとのこと、ひと口30回咀嚼を目指したいものです。